京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成　29 年　5 月　5 日

［基本情報］
○申請者
採 択 年 度：平成 28 年度
部 局 名 等：人文科学研究所
職　　名：助教
氏　　名：小川　佐和子（フリガナ：オガワ　サワコ）
研究課題名：19 世紀後半から 1930 年代にかけての映画・演劇をめぐる日欧比較研究

○渡航先
国　　名：オーストリア共和国
研究機関名：ウィーン大学
研究室名等：［研究室名］日本学研究室
［職名等・氏名］イナ・ハイン（Ina Hein）教授
渡 航 期 間：平成 28 年 7 月 24 日～29 年 4 月 6 日（257 日）

○渡航期間中の出張

出　張　先：ノイシュトレリッツ、ベルリン（ドイツ）
目　　的：音楽祭および関連する展覧会に参加し、演出分析を行った。
期　　間：H28.7.28-30

出　張　先：シュタイアー、ランゲンロイス／バート・イシュル、ザルツブルク／メルビッシュ（オーストリア）
目　　的：H28.8.4-7/8.11-17/8.19-21
期　　間：音楽祭および関連する博物館・展覧会に参加し、資料・演出分析を行った。

出　張　先：ワルシャワ（ポーランド）
目　　的：ポーランド国立映画アーカイヴを訪問し、上記課題に関する資料調査を行った。
期　　間：H28.9.19-22

出　張　先：ポルデノーネ（イタリア）
目　　的：ポルデノーネ国際無声映画祭に参加し、上記課題に関する資料調査を行った。
期　　間：H28.10.3-7.

出　張　先：フライブルク（ドイツ）
目　　的：「社会主義時代の大衆音楽劇」と題された国際学会に参加した。
期　　間：H29.2.23-26.

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

［成果］

○プロジェクトの成果及び今後の展開

・研究概要

派遣者は、映画がプリミティヴな初期段階から大衆娯楽・芸術へと至る発展史について、19 世紀の諸芸術および、世紀末から 20 世紀初頭にかけての芸術におけるモダニズムとの相互関係という視座から研究を進めてきた。本プログラムをつうじて、大衆芸術と映画の連続性に関する日欧比較研究について 1930 年代以降にも視野を広げていき、研究を発展させるべく現地での調査をより精力的に継続した。とりわけ注目したのは演劇と映画の関係、すなわち映画に翻案された演劇作品および、映画化されたオペラ・オペレッタ作品である。俳優や演出家の映画界への積極的な参入、さらに演劇界・文学界と映画製作とのコラボレーションなど、産業・興行・芸術面で映画と演劇・文学が密接な関係を築いていった様相を、比較文化論研究として発展させていった。本研究課題は、演劇・歌劇の映画化が盛んに行われていたウィーンを拠点にすることで初めて実現できたものである。現在でも続けられているそのような上演の事例もとり上げることで、本研究課題の今日的意義についても考察することができた。

以上の諸芸術と映画との相互関係という視座は、従来の映画史研究および越境的な芸術史研究・比較文化研究に新たな知見をもたらすものである。

・国際共同研究の立上げ・ネットワークの構築

研究対象である劇場の学術的要員（ドラマトゥルク）や演出家、監督、役者らとの研究交流や、彼らにインタビューを行うことで、現地でしか実施できない調査に力を入れた。文献、一次資料、映画資料の調査は主としてオーストリア・フィルムアーカイブ、オーストリア国立図書館、オーストリア国立演劇博物館にて実施し、学芸員やアーキヴィストらとの共同研究を準備することができた（例「舞台におけるジャポニスム」についての共同研究など）。

外部研究資金に関しては、サントリー文化財団の「若手研究者のためのチャレンジ研究助成」（2016 年度）に応募し、「ジャズ・オペレッタからナチ・オペレッタへ－1920-40 年代の大衆喜歌劇における風刺表現と演出の変遷－」と題した申請研究テーマにて採択された。本研究課題は、ジョン万プログラムの研究者派遣で見識を深めた研究内容をさらに深化させていくものである。

派遣先のオーストリアにとどまらず、フライブルクやブダペストにおいても国際学会に参加し、より越境的な研究ネットワークを築くことができた。

・国際共著論文の投稿・発表等の状況、国際学会等での発表状況［予定を含む］

インタビューにもとづく論文は下記である。

小川佐和子「「命かけて只一度」—《会議は踊る *Der Kongress tanzt*》をめぐる映画とオペレッタの演出」『季刊 iichiko』131 号、2016 年 7 月。

受入先のウィーン大学日本学科にて下記の講演を行った。

Sawako OGAWA, The First World War and Japanese Cinema: The Tracks of Forgotten Images, Der Dekan der Philogisch-Kulturwissenschaftlichen Fakultät, das Institut für Ostasien-wissenschaften—Japanologie der Universität Wien und der Akademische Arbeitskreis Japan, 2017.1.16.

・在外研究経験によって習得した能力等

アカデミックな研究機関にとどまらず、研究対象である作品群が実践される場、すなわち劇場や映画館といった現場に関わる人々（広義の意味で在野の研究者に含まれる人々と言える）と研究上の交流を深めることによって、研究課題にたいしてこれまでより多角的で領域横断的な見方を習得することができた。著作や論文といった文字で研究成果を出していく研究者と、研究対象を実際に上演・上映して一般の人々に伝える演劇人・映画人とが相互に交流することで、新たな研究の展開が可能となることを、身をもって体感することができた。このように、研究の領域を横断することに加えて、研究者と実践者との境界を横断することも、研究の方法論、教育方針、人材育成には意義深い手法の一つであると考える。

・在外研究経験を活かした今後の展開

今後は、音楽史・映画史・演劇学・社会史を射程に入れた、越境的な大衆文化論をめざしていく。従来、歌劇研究は音楽学と演劇学それぞれの方法論に分断され、前者では楽譜分析に、後者では台本研究に軸が置かれる傾向にあった。しかし私が重視する、個々の作品が上演される場、すなわち演出や受容の研究は、そのどちらか一方に属することがない。舞台作品には、①作品のなかの時代②作品が初演された時代③作品が上演される時代という三つの時があり、とりわけ③は、初演以降今日に至るまで演出によって更新され続ける。とりわけ世相を揶揄し、パロディーに満ちたオペレッタ（喜歌劇）においては、風刺のアクチュアリティが常に作品を作り変えていく。他の表象文化とは異なり、今もなお生まれ変わり続けるオペレッタの意義を解明するには、楽譜や台本テクスト分析の専門的知識だけでなく、各分野に特化しない領域越境型の文化史としてのアプローチが必要だと考える。

各劇場（アン・デア・ウィーン劇場、ベルリン大劇場、カール劇場、ヨハン・シュトラウス劇場、州立劇場）におけるオペレッタ上演時の脚本、演出台本、プログラム、記録写真、舞台装置画、衣装画といった一次資料は、主としてオーストリア国立演劇博物館およびウィーン・フォルクスオーパー・アーカイヴにて収集する。いずれもデジタル化は進んでおらず、非公開資料も多く、現地調査を必要とする。その際には、今回の派遣プログラムで築いた研究ネットワークにもとづき、演劇博物館の学芸員やフォルクスオーパーのドラマトゥルクらと意見交換をする。映画化されたオペレッタについては、フィルムアーカイヴ・オーストリアにて視聴する。

一次資料調査と並行して、ウィーン・フォルクスオーパー、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、ブダペスト・オペレッタハウスおよびレハール音楽祭を中心に最新の演出を確認し、現代のオペレッタ演出と風刺表現にどのような可能性があるのか検討する。今日においても大統領選挙や難民問題、ポケモンなどの時事的話題が風刺の対象として即興芝居で扱われるからである。必要に応じて、引き続き演出家や出演者にインタビューを行っていく。研究成果を本として刊行することを目指すとともに、上映・上演の実践にも関わっていきたいと考える。

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

英文成果報告書

○申請者情報
部　局　名：Institute for Research in Humanities
職　　名：Assistant Professor
氏　　名：Sawako Ogawa
研究課題名：A Comparative Study of European and Japanese Film and Theatre History: The Latter Half of the 19th Century to the 1930s
渡航期間：2016. 7. 24. - 2017. 4. 6. (257 days)

○渡航先情報
国　　名：Austria
研究機関名：Vienna University
研究室名等：Japanese Studies
受入研究者名：Prof. Ina Hein

○渡航報告

[Research plans during this period]

At the Austrian Film Archive, the Austrian Film Museum, and the Austrian Theatre Museum, I continued to survey and gathered materials relating to the relationship between film and theater historically and stylistically from the end of 19th century to 1930s. In addition, I also made use of the National Library and University Library. Based on my findings, I engaged in further discussion with individuals at the University of Vienna's Japanese Studies Department (such as my supervisor Professor Hein) and also the Theater, Film and Media Studies Department.

With Austria as my base, I furthered my research at the major film and theater archives in countries such as Hungary, France, Germany, Italy, and England.

I attended a film festival: "Il Giornate del Cinema Muto" (in October in Pordenone, Italy). It is known for hosting some of the finest viewings of early film collections from throughout the world. Many film archivists and film historians from throughout the world attended this festival and conference. Attending the festival assisted me in building an essential foundation for my analytical study of film as well as in further establishing a professional network of scholars.

In addition, after my time abroad concludes, I am planning on presenting my research, which I will have carried out through my work with Professor Hein and the rest of the University of Vienna's Japanese Studies Department as well as through surveys at various archives, in the form of conference papers, articles, and combined lectures and film/theater viewings in Japan. Using the new knowledge I could gain from doing research in Europe, in 2017 I will hold film viewings and lectures in Kyoto (jointly sponsored by the Museum of Kyoto and other research groups).

[My Activities in Austria to the Present]

While on this scholarship, I presented a conference paper and established a network of researchers inside and outside of Austria. I further developed my comparative research on the continuity between film and high as well as popular art in Europe and Japan.

Furthermore, I was able to conduct research at the Austrian Film Archive and the Austrian Film Museum, which are known for having the world's finest collections of early film, as well as at the Austrian Theatre Museum, which is abundant in primary resources and precious visual records of theater from the days of early film. At these institutions I gathered necessary materials and built an indispensible foundation for carrying out my research at them, as well as established relationships with affiliated individuals.

Using Vienna as a base, I have been able to further my research by gathering materials in several European countries as well as to refine the analytical framework of my comparative study through dialogues with scholars from other countries. This has enabled me to articulate more precisely this framework, and I hope to continue to lay the foundation for a related international research project in the future. During my stay in Vienna I have discussed the results of my research with scholars from various European countries and actively presented them at conferences throughout the continent.

[Publication]

Sawako OGAWA, "Das gibt's nur einmal": Die Operetten-Inszenierung des Films *Der Kongress tanzt* durch die Wiener Volksoper, Kikan iichiko, number 131, July, 2016. (Japanese)

[Presentation]

Sawako OGAWA, The First World War and Japanese Cinema: The Tracks of Forgotten Images, Der Dekan der Philogisch-Kulturwissenschaftlichen Fakultät, das Institut für Ostasien-wissenschaften—Japanologie der Universität Wien und der Akademische Arbeitskreis Japan, 2017.1.16.